未来への
手紙
選定会

選定作品

将来へ伝えたい教訓

二本松市立岩代中学校３年　遠藤　美咲

　私が震災学習を通して学んだことは、私たちの生活に「当たり前」というものは存在しないということです。

　今こうして学校に通えているのも、友達と何気ないことで笑い合えていることも家に帰って親があたたかいご飯を作って待っていてくれることも、すべて当たり前ではありません。

　震災があった日、その時から今までの幸せが全て崩れ落ち、本当ならできていたこと、会えていた人、帰るべき場所があった人、そんな人たちの「ただいま」も「おかえり」も何も聞けず、言うこともできません。

　今、私たちができることは何だろう。たくさん頭を抱えました。私が辿り着いた答えは今を懸命に生き抜くことです。

　今あるこの幸せを、少しでも多く少しでも長く、未来へ繋いでいくことができるように。

将来へ伝えたい教訓

二本松市立二本松第一中学校1年　渡邊　莉來

　2011年3月11日。この日は、私がまだお腹の中にいた頃でした。さすがにお腹の中にいた頃の記憶は無いけれど、最近校外学習で行った浪江町でこの日が東日本大震災が起きた日だと分かりました。

　校外学習で行った原子力災害伝承館や請戸小学校の状況を見て、私は平和な日常がたった1回の地震だけで壊れてしまうことに恐怖を感じました。

　あなたは毎日「ありがとう」や「ただいま」、「おかえり」など日常の中で会話をしていますか。これらのことは、あなたにとって普通だと思いますが、毎日送っていた日がいつ来ないのかは誰も分かりません。

　だから日頃の感謝を忘れず過ごしてほしいと思います。

将来へ伝えたい教訓

大鳥中学校1年　佐藤　結希

　私が今回、伝承館に行って学んだことは、命の大切さです。震災を知らない世代も含めた、多くの方に、被災地に実際に足を運び、自分の目で見て、感じることが大切だと思った。そして自分たちが学び得た、震災の教訓を、他の地域へ、また次の世代へ、つないでいくことが命を守るうえで、大切なことだと痛感させられました。

　日ごろから、災害時における危険を認識して、自分と周りの人が安全に避難できるような行動をしたいと思います。

将来へ伝えたい教訓

福島県立会津学鳳中学校2年　菊地　優奈

　波にのまれていく車や家、時が止まったままの時計。震災当時のまま残っているお店。それは私が知っている風景とは程遠い。3月11日。あの日から福島の人口は当たり前だった「日常」を奪われた。

　当たり前に来ると思っていた明日。そんな日々が来ない日が来るかもしれない。だからこそ、笑い合ったり、けんかしたり、話したりそんな何気ない日常を大切にして生きていかないといけないと強く思う。

　そして、伝えたい事は伝えれる内に、やりたい事はやれる内に、今できることを全力でやって生きていくのが私たちの使命だろう。

将来へ伝えたい教訓

飯野中学校1年　丹野　楓

毎日温かいご飯を食べて、仕事や学校へ行って、家族のいる家へ帰って、安心してねる。

みなさんは、今送っている生活を「あたり前」だと思っていませんか。私は、東日本大震災について学んで、いつもの生活は「あたり前ではない」と思いました。

いつ起るか分からない自然災害は、一瞬のうちに私たちの普段の生活や、大切な人をうばってしまうのです。

授業で学んだり、語り部さんの話を聞いたりしていくうちに、どれだけ今の生活が大切で幸せなのか、震災で大切なものを失ってしまった人の辛さが伝わってきます。

私は、震災で苦しむ人を減らすため、未来へ東日本大震災のことを伝えることが大切だと思うのです。